

# いわて復興だより



復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手 第 158 号 令和 2 年 2 月号

## 「いわて三陸復興フォーラム」開催

盛岡市・釜石市  
MORIOKA KAMAISHI

岩手県は、東日本大震災津波からの復興について学び合い、震災の風化を防止するとともに、復興や地域づくりのさらなる推進につなげるために、1月26日(日)と27日(月)の2日間、「いわて三陸復興フォーラム」(主催:岩手県、いわて未来づくり機構)を盛岡市、釜石市で開催しました。

### 全体会 1/26 盛岡市

26日(日)、エスポワールいわて(盛岡市)を会場に、「間もなく9年、復興のこれから」をテーマに全体会が行われ、県内外から約120人が参加しました。

達増知事が「復興への理解を深め、継続的な復興への参画を促進するための活動や情報発信のあり方について考えていきたい」と挨拶しました。

続いて、フォトジャーナリストの安田菜津紀氏が「復興のこれから、そして世界へ」と題して基調講演を行い、陸前高田市の取材を通じて感じた被災者の気持ちや、復興のために必要な支援のあり方について伝えました。

その後、株式会社キャッセン大船渡取締役の臂徹氏、やまだワンダフル体験ビューロー体験観光コーディネーターの服部真理氏、株式会社か

まいし DMC 地域創生事業部・いのちをつなぐ未来館職員の菊池のどか氏、フリーアナウンサーのさのりえ氏によるパネルディスカッションを行いました。まちづくりの取組、体験観光を通じた地域活性化や、防災教育など、それぞれの取組を発表した後、未来に向け、三陸地域からの情報発信のあり方などについて意見が交わされました。



達増知事挨拶



安田菜津紀氏による基調講演



パネルディスカッションの様子

### 内陸報告会 1/27 盛岡市

27日(月)、サンセール盛岡(盛岡市)で行われた内陸報告会では、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長の室崎益輝氏が「災害復興と社会創造」と題し、25年を迎えた阪神・淡路大震災の事例を交えながら、

自治体の今後の災害対応のあり方について基調講演を行いました。また、他の自治体や民間企業からの応援職員による活動報告が行われました。

### 沿岸報告会 1/27 釜石市

27日(月)、釜石市で行われた沿岸報告会では、他の自治体からの応援職員による水門や防潮堤などの津波防護施設等に関する活動報告が行われた後、釜石大観音仲見世通りリノベーションプロジェクト代表の宮崎達也氏によるリノベーションまちづくりについての発表がありました。その後、参加者は、片岸海岸防潮堤、鶴住居駅前エリア「うのすまい・トモス」、釜石大観音仲見世通りの

現地視察を行い、三陸の「これから」について考える機会となりました。



片岸海岸防潮堤の見学



室崎益輝氏による基調講演



いのちをつなぐ未来館見学

## 「いわての復興教育」 児童生徒実践発表会開催

盛岡市  
MORIOKA

2月4日（火）、「いわての復興教育」児童生徒実践発表会が岩手県民会館大ホールで開催されました。

児童生徒実践発表会は、東日本大震災津波以降推進してきた「いわての復興教育」の成果を県内外に発信し、「いわての復興教育」の充実に資するとともに、震災の教訓を語り継ぐ機会とするため、昨年度から開催し、今年度で2回目の開催です。

今回は、北上市立黒沢尻北小学校が「地域安全マップ」、北上市立上野中学校が防災学習の取組を、寸劇を交えて発表しました。また、県立宮古北高校は、三陸鉄道の「震災学習列車」を活用した全校遠足を通じて、地域の課題に向き合い、地域の担い手として考えたことを発表するなど、7校が復興教育の成果を発表しました。

震災の経験や教訓の継承が課題とされる中、児童生徒の真摯な発表により、来場者が改めて復興教育の大切さを感じる機会となり、好評を得ました。



発表者全員での集合写真

## 「津波遺構たろう観光ホテル」 エレベーター整備

宮古市  
MIYAKO

1月18日（土）、宮古市田老地区の「津波遺構たろう観光ホテル」に見学者用のエレベーターが完成し、利用が開始されました。

たろう観光ホテルは、東日本大震災津波では4階まで浸水、2階までは柱を残して流失しました。

その後、宮古市が、震災の記憶を風化させることなく後世に伝えるための「津波遺構」として同ホテルを整備し、平成28年4月から一般公開されています。

宮古観光文化交流協会のガイドによる施設見学の際は、発災時の津波襲来の映像を、実際に撮影していた6階で上映していますが、これまで、見学者は外に取り付けられた非常階段を利用するしかなく、車いす利用者や足腰に不安のある方の見学は困難な状況でした。

宮古市がエレベーター専用棟を整備し、見学者の円滑で安全な移動手段を確保することで、一層多くの方々への震災の事実の発信が期待されます。



エレベーターが整備された「津波遺構たろう観光ホテル」（写真提供：宮古市）

つ な み

## 世界へ、未来へ、「いわて TSUNAMI メモリアル」

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」  
（いわて TSUNAMI（つなみ）メモリアル）を紹介します。

1月26日（日）、東日本大震災津波からの復興の歩みをつづった岩手復興ドラマ（「日本一ちいさな本屋」・「冬のホタル」）の上映会を開催しました。

震災の記憶を風化させず、復興への継続的な支援につなげ、また、被災された方々の心の復興を進めることを目的に、原作・出演者・スタッフ・ロケ地なども、オールいわてで制作されました。当日は、県内外から定員を上回る多くの方々にご来場いただきました。

また、上映会終了後には、「日本一ちいさな本屋」で主人公の父親役を演じた大船渡市出身の俳優・横道毅さん

が登壇し、過去に津波により大きな被害を受けた大船渡市三陸町を舞台にした防災紙芝居「吉浜のおゆき」を上演しました。

横道さんは、登場人物の感情を繊細に、場面によっては鬼気迫る表情で熱演され、涙を拭う来場者の姿も見られ、上演後には大きな拍手が送られました。

東日本大震災津波伝承館では、今後も、震災津波や復興に関連する映像作品の上映など、様々なイベントを通して、記憶の風化を防ぎ、震災津波の事実と教訓を伝えていきます。



岩手復興ドラマのイメージ画像



防災紙芝居「吉浜のおゆき」を熱演する横道さん

東日本大震災津波伝承館  
臨時休館日のお知らせ

展示施設のメンテナンスのため、  
3月3日（火）及び4日（水）  
は休館します。

伝承館公式  
ホームページ



## 三陸鉄道リアス線 田野畑一普代間で運行再開

三陸鉄道  
RIAS LINE

令和元年10月の台風第19号で甚大な被害を受け、一部区間が不通となっている三陸鉄道リアス線は、2月1日(土)に田野畑一普代間で運行が再開されました。

これにあわせ、普代駅で運行再開を祝うセレモニーが行われ、普代村で集められた募金が、地元の保育園児たちから三陸鉄道の中村一郎社長に手渡されました。

今後は、3月14日(土)に普代一久慈間、3月20日(金)には釜石一陸中山田間が再開し、いよいよリアス線全線で運行が再開されます。

なお、3月20日は全線運行再開を記念した式典が釜石市民ホール TETTO で開かれ、地元郷土芸能演舞や三陸鉄道応援大使 AKB48 によるミニコンサートも行われる予定です。

また、3月22日(日)には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレーに先立ち、車内に「復興の火」が展示される予定です。

運行再開情報等の詳細は、三陸鉄道ホームページをご確認ください。



運行再開を祝う地域住民(普代駅)

三陸鉄道  
ホームページ



## 「いわての学び希望基金」に対する 支援の状況

岩手県では、東日本大震災津波で被災した子どもたちの修学の支援や教育の充実等を目的として、平成23年6月に「いわての学び希望基金」を設置しました。

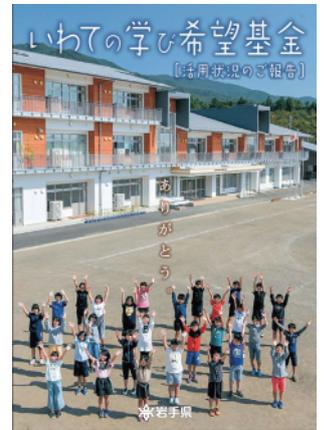
これまで国内外の皆さまから2万4千件を超える多くのご寄附をいただいております、1月に寄附金総額が100億円を超えました。

皆さまからの温かいご支援により、被災した孤児・遺児への奨学金給付等を始め、教科書購入費等の給付、部活動遠征費の補助、通学費用の負担軽減など、子どもたちが社会に巣立つまでの「暮らし」と「学び」の支援を行っています。

子どもたちは、皆さまの温かいご支援を心の支えに、これからも夢や目標に向かって進んでいきますので、引き続き心をお寄せいただければ幸いです。

なお、被災した子どもたちが成長した様子などをまとめた小冊子を発行しており、寄附者の皆さまに配付しているほか、県の公式ホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

県公式  
ホームページ



いわての学び希望基金小冊子



## さんりくイベント情報



EVENT

### 東京2020オリンピック聖火リレー「復興の火」

「復興の火」は、東京2020オリンピック聖火リレーのコンセプトである「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。」に沿い、東京2020オリンピック聖火リレーの一環として実施されるもので、復興に力を尽くされている被災地の方々にギリシャで採火した聖火を、オリンピック聖火リレーに先立ち、ご覧いただけます。

【三陸鉄道】 3/22(日)

<出発セレモニー>

三陸鉄道宮古駅前広場 8:00~8:30

宮古駅 8:45 発

陸中山田駅 9:20 着 <お披露目セレモニー> 9:50 発

大槌駅 10:10 着 <お披露目セレモニー> 10:40 発

釜石駅 10:56 着

【SL 銀河】 3/22(日)

<引継ぎセレモニー>

JR釜石駅前広場 11:00~12:45

釜石駅 13:00 発

上有住駅 13:57 着 <お披露目セレモニー> 14:07 発

遠野駅 14:47 着 <お披露目セレモニー> 15:50 発

花巻駅 17:12 着

<到着セレモニー> 花巻なほんプラザ 17:20~19:00

【「復興の火」展示イベント】 3/23(月)

時間:10:00~15:00

場所:大船渡市防災観光交流センター  
おおふなぼーと

問い合わせ▶ 岩手県文化スポーツ部  
オリンピック・パラリンピック推進室  
☎ 019-629-6496

3/1

第18回  
宮古毛ガニまつり

宮古市  
MIYAKO

場所▶宮古市魚市場

新型コロナウイルス感染拡大の  
防止の観点から【中止】  
となりました。

問い合わせ▶ 一般社団法人宮古観光文化交流協会  
☎ 0193-62-3534

3/7

かたりつぎ  
~朗読と音楽の集い~

大船渡市  
OFUNATO

場所▶大船渡市民文化会館リアスホール

東北大学アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」で収集した東日本大震災の証言を編集した文章を、俳優の竹下景子さんが音楽とともに朗読します。また、大船渡市による災害復興への取組や、「みちのく震録伝」の取組の報告等も行われます。

問い合わせ▶ かたりつぎ仙台実行委員会事務局  
☎ 090-7663-4102  
(平日9:00~17:00)

3/22

うのすまい・トモス  
1周年記念イベント  
(仮称)

釜石市  
KAMAISHI

場所▶うのすまい・トモス

うのすまい・トモスの1周年と三陸鉄道再開を記念したイベントです。食・防災・三陸鉄道をテーマに、防災食のお振舞いやテナントの出店やイゼ!カエルキャラバンによる子ども向け防災体験、三陸鉄道写真展(予定)などが行われます。

問い合わせ▶ うのすまい・トモス  
(株式会社かまいし DMC)  
☎ 0193-27-5666



県立宮古水産高校の生徒と岩手県立大学の学生が開発した「鯖（さば）しいたけ煮付缶詰」が、三陸鉄道宮古駅の三陸鉄道直営店「さんてつや」で発売されました。



鯖しいたけ煮付缶詰  
(写真提供：三陸鉄道株式会社)

昨年、県立宮古水産高校食品家政科の生徒と岩手県立大学「復興 girls & boys\*」の学生が共同で開発した「サバ椎茸味付缶詰」が、新たに「鯖しいたけ煮付缶詰」として生まれ変わり、1月21日（火）、三陸鉄道本社で発表会が行われました。

三陸産の脂がのったサバと宮古産の肉厚な原木しいたけを使用し、しょうゆだれで味付けされた缶詰は、一度に海と山の幸を味わえると好評で、今年の夏には2,000個限定で販売され、完売しました。

今回は、高校生のレシピをもとに改良し、製造を陸前高田市の

株式会社タイム缶詰、販売を宮古市の丸友しまか有有限会社などの民間企業へ引き継ぎました。

缶詰は、400円（税込み）で、「さんてつや」の他、県内外での販売が予定されており、新たな三陸の名産として期待が寄せられています。



「鯖しいたけ煮付缶詰」  
発表会の様子  
(写真提供：三陸鉄道株式会社)

<商品の購入>

■さんてつや

住所：宮古市宮町1-1-80

営業時間：8:45～17:00 電話：0193-63-7738



連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第103回は、星野 智美さんを紹介します。

PROFILE

群馬県出身。東京の大学を卒業後、保育士を目指し群馬県の学童保育で小学生と関わる仕事に就く。

震災をきっかけに、岩手県の子どもたちに何かしてあげたいという思いから洋野町に移住し、放課後児童クラブコーディネーターとして活動する。

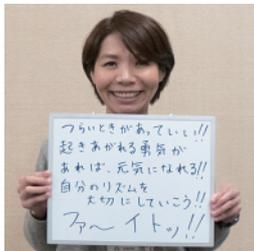
子どもたちとの触れ合いを大切に

群馬県の学童保育所で震災にあった星野さんは、テレビで東北沿岸の状況を知り、「震災を機に、以前から旅行などで好きだった岩手県で、子どもたちと関わる仕事がしたいという思いが強くなり、平成29年、洋野町の児童クラブ運営に携わる地域おこし協力隊として移り住みました。」と移住したきっかけを話します。

星野さんは、「学校が休みの日や下校後に家の



洋野町 地域おこし協力隊  
放課後児童クラブコーディネーター  
星野 智美さん  
(ほしの ともみ)



つらいときがあってもいい!!  
起きあがれる勇気があれば  
元気になる!!  
自分のリズムを大切にしよう!!  
ファイト!!

人がいない子どもたちを放課後児童クラブで預かり、生活や遊びの指導、危険がないように安全を見守りながら、クラブと行政をつなぐ橋渡し役をしています。」と、念願だった岩手の子どもたちとの触れ合いに充実した日々を送っています。

子どもたちの未来のために

「海のある洋野町はロケーションが素敵で、食べ物も美味しく、住みやすいところだと思います。地元の人たちも優しく、私も洋野町に来て、いろいろな方に助けていただきながらたくさんを知りました。」と星野さんは洋野町の魅力を話します。

「七転び八起きではありませんが、子どもたちには、何度転んでもいいから起き上がる勇気を持ってもらえたらと思います。これからも仕事に励み、未来を歩んでいく子どもたちのお手伝いをしていきたいと思っています。」と話す星野さんのますますの活躍が期待されます。

岩手県の被害状況

令和2年1月31日現在

- ▶人的被害 死者（直接死）：4,674人 行方不明者：1,112人  
死者（関連死）：469人
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 26,079棟

被害状況等の詳細  
義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

令和2年1月31日現在

- ▶義援金受付状況 約187億2,073万円（97,220件）
- ▶寄付金受付状況 約200億6,605万円（9,746件）
- ▶いわての学び希望基金（※）受付状況 約100億373万円（24,212件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

いわて震災津波アーカイブ～希望～  
約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索



いわて復興だより Web

一部記事、いわてさんりくびとを動画で紹介しています。  
ビジュアル豊富なWebもご覧ください。

